

知っておきたい地震のリスク 地震ハザードマップ

この計算結果は、1つのシナリオにすぎません。マップで示した震度等は、あくまで1つのシナリオです。実際の災害がこの通りになるとはかぎりません。

マップを拡大したい場合は、ホームページでご確認ください。
久喜市ホームページ
<https://www.city.kuki.lg.jp/kurashi/bosai/map/index.html>

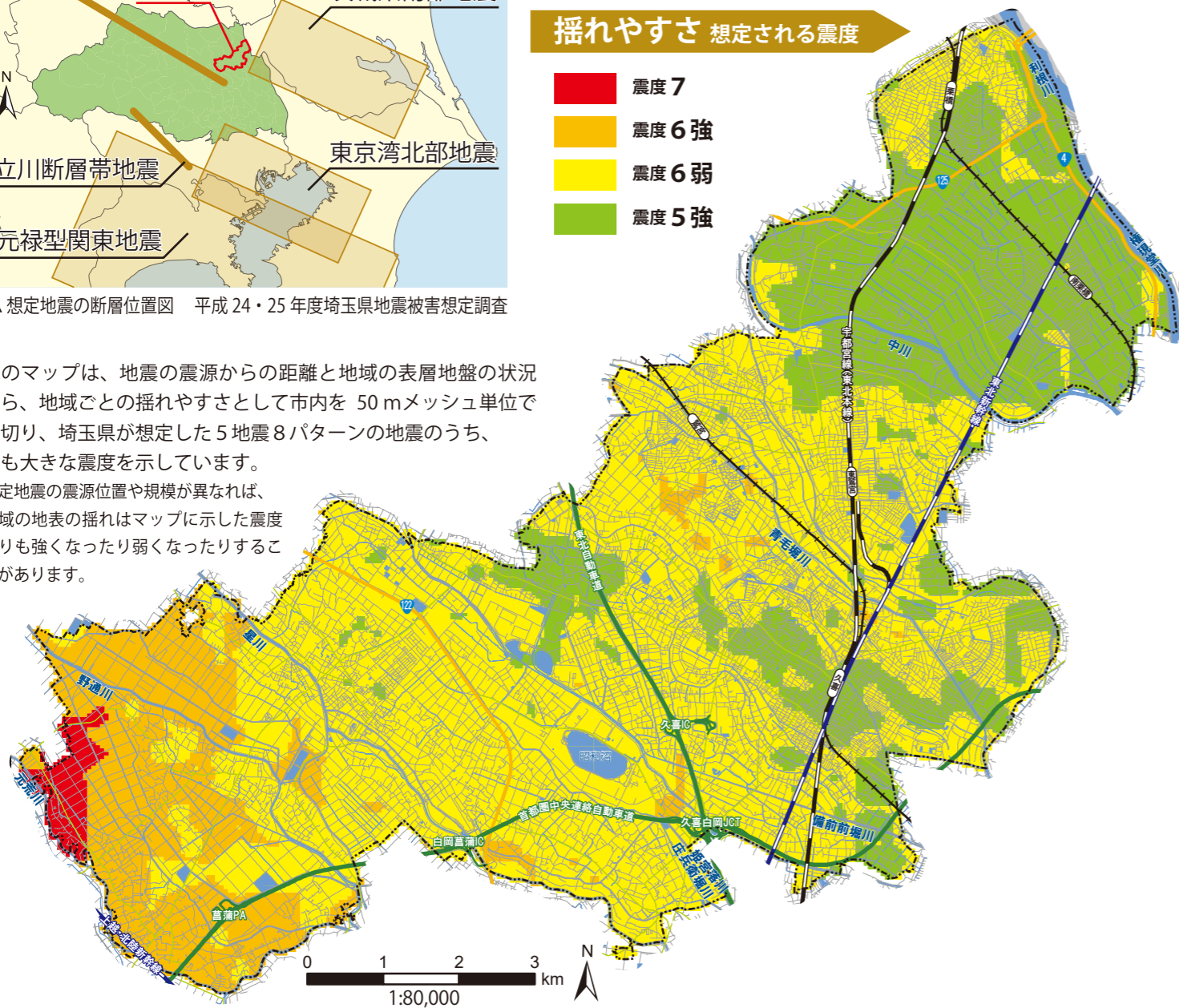


▲ 想定地震の断層位置図 平成 24・25 年度埼玉県地震被害想定調査

揺れやすさ 想定される震度

- 震度 7
- 震度 6 強
- 震度 6 弱
- 震度 5 強

このマップは、地震の震源からの距離と地域の表層地盤の状況から、地域ごとの揺れやすさとして市内を 50 mメッシュ単位で区切り、埼玉県が想定した5地震8パターンの地震のうち、最も大きな震度を示しています。想定地震の震源位置や規模が異なれば、地域の地表の揺れはマップに示した震度よりも強くなったり弱くなったりすることがあります。



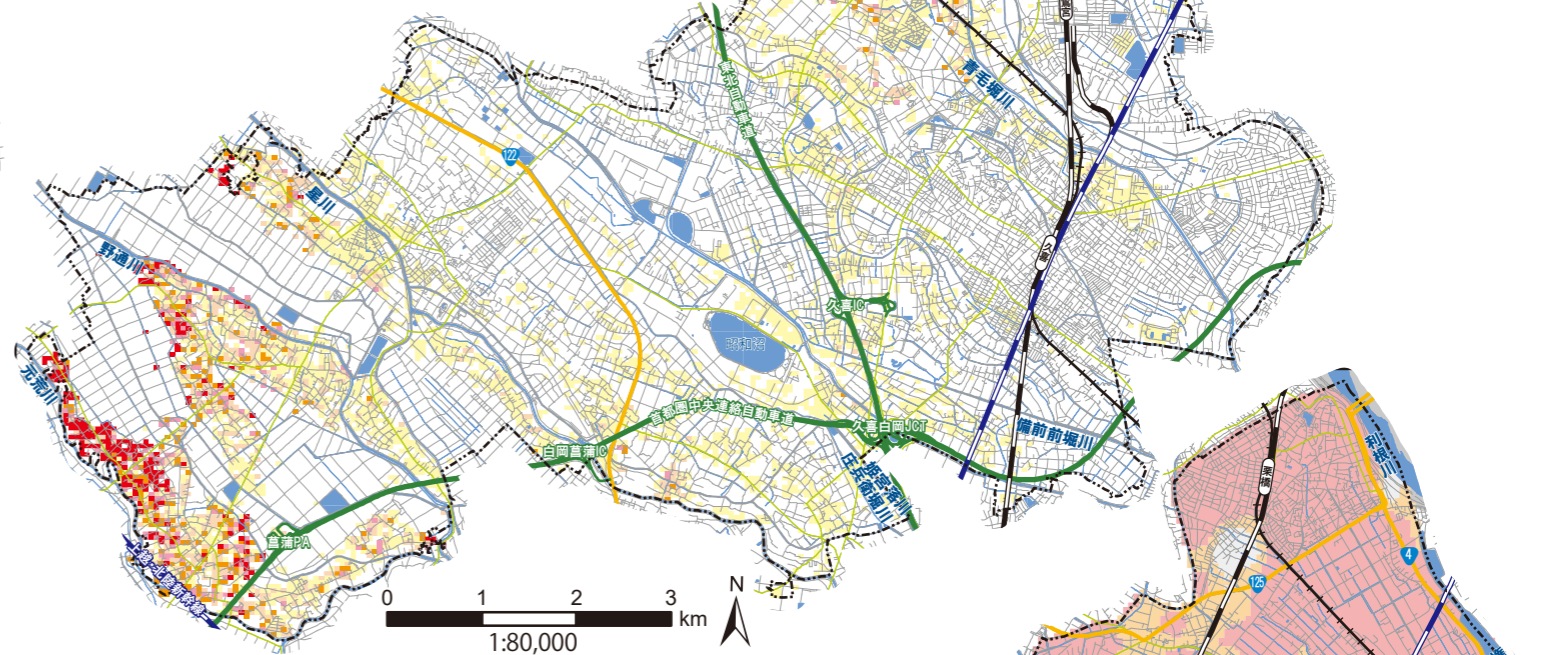
建物倒壊危険度 全壊する建物の割合

建物倒壊危険度	危険度 1	危険度 2	危険度 3	危険度 4	危険度 5	危険度 6
地域内の建物の中で全壊する建物の割合	0-0.5% 未満	0.5-5% 未満	5-10% 未満	10-15% 未満	15-20% 未満	20% 以上

揺れやすさマップの想定震度をもとに、建物の耐震性を目安にして、建物の倒壊危険度を表したものです。

- ・建物の構造、建築年次などをもとに 50 mメッシュ単位で表示しました。
- ・数値が大きいくほど、建物が全壊する割合が高くなるのが予想されます。
- ・数値は、50 mメッシュ単位で集計したものであり、個々の建物の耐震性は評価していません。

※建物のデータは平成 29 年 1 月 1 日現在のものです。



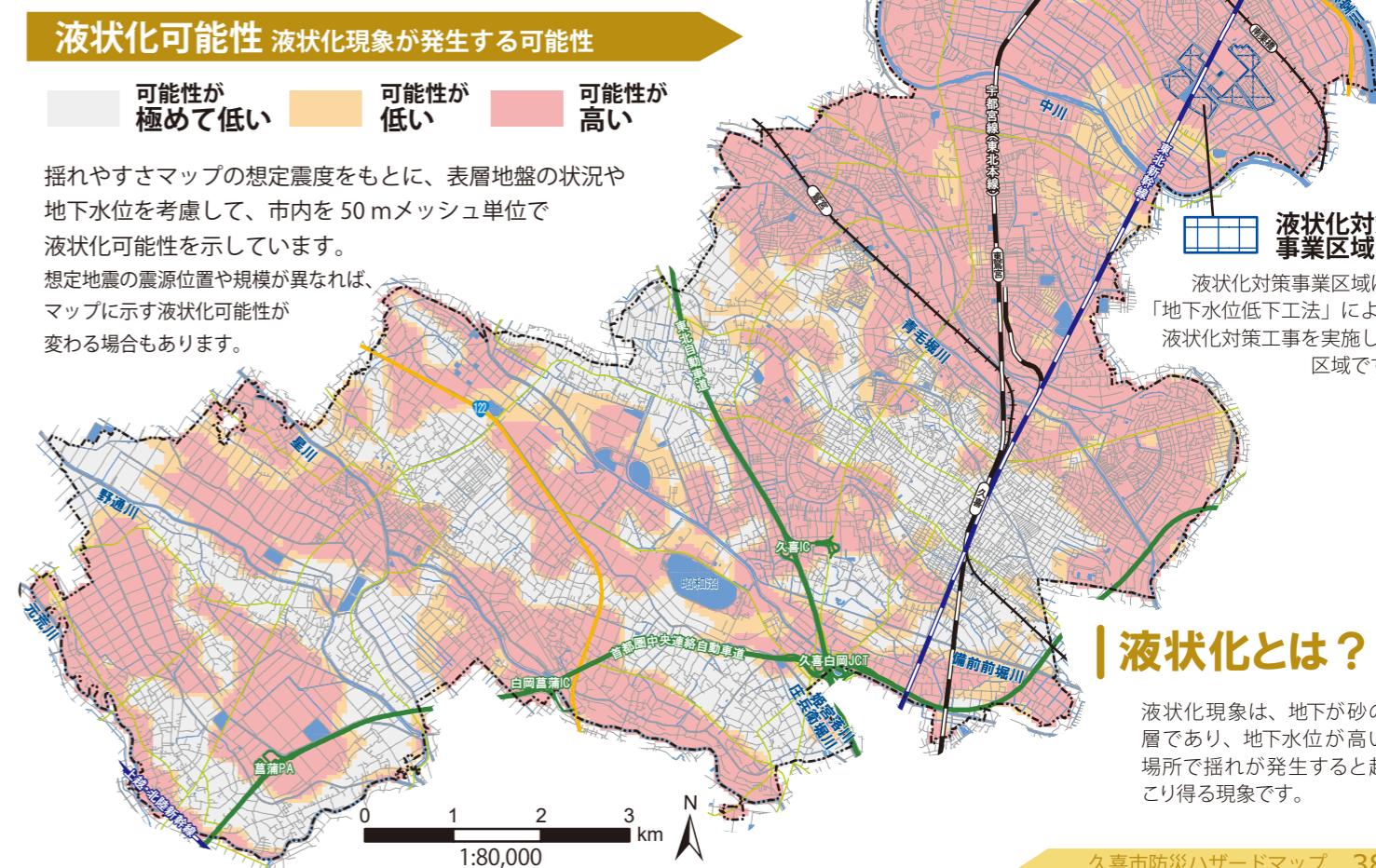
液状化可能性 液状化現象が発生する可能性

- 可能性が極めて低い
- 可能性が低い
- 可能性が高い

揺れやすさマップの想定震度をもとに、表層地盤の状況や地下水位を考慮して、市内を 50 mメッシュ単位で液状化可能性を示しています。想定地震の震源位置や規模が異なれば、マップに示す液状化可能性が変わる場合もあります。

液状化対策事業区域

液状化対策事業区域は、「地下水低下工法」による液状化対策工事を実施した区域です。



震度 どんな揺れ?

震度 5 弱

- ・大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- ・棚にある食器類や本が落ちることがある。



震度 5 強

- ・物につかまらなると歩くことが難しい。
- ・固定していない家具が倒れることがある。
- ・補強されていないブロック塀が崩れることがある。



震度 6 弱

- ・立っていることが困難になる。
- ・壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。



震度 6 強

- ・はわないと動くことができない、飛ばされることもある。
- ・大きな地割れが生じたり、大規模な地滑りや山林の崩壊が発生することがある。



震度 7

- ・耐震性の低い建物は、傾くものや倒れるものが増える。

